

福祉、畜産分野での物価高騰対策で質疑

6月定例市議会スタート

6月議会が4日から始まりました。初日は市長の提案理由の説明後、総括質疑を3人の議員が行いました。私は今年度一般会計補正予算に計上された「介護保険施設・障害者施設等物価高騰対策支援事業」「上越市粗飼料価格高騰緊急対策事業」の制度設計にあたっての調査、関連団体との協議などについて市長に聞きました。

このうち「介護保険施設・障害者施設等物価高騰対策支援事業（下表参照）」について、「施設の多くは、現在、人手不足などにより運営危機に陥っていると聞けが、今回の施策はどのような思いで取り組むのか」「施設等における影響額は、どのような方法で実態調査し、概ね5割を目安に支援単価として設定したのか」と聞きました。

私は、「切迫した声がいくつもあつたということだが、それならば、もっと調査対象施設を広げてさらに実態をつかみ、予算計上すべきだったのではないか。影響額の5割の支援ならば切迫した状況を回避できるのか」と追及しました。これに対して市長や担当部長は、「調査自体が非常に事業所の方にも負担になる」「他の自治体と比較してもそんな色のない（支援額だ）」などとのべるにとどまりました。

「上越市粗飼料価格高騰緊急対策事業」は、わらなどの粗飼料高騰対策として、乳用牛1頭当たり7万2000円、肉用牛（繁殖）同4万4000円、肉用牛（肥育等）同1万9000円の支援をするものです。

これについて私は、「制度設計に当たったの、関係農家や関係団体との協議内容を確認したい」「この事業の対象を飼料全体ではなく、粗飼料の価格上昇分に係る費用とした理由は何かなどと聞きました。市長は、「上越地

た。これに対して市長は、「この間、

『国が定める公定価格により施設を運営しているため、物価高騰の影響を利用料に転嫁できず、経営努力のみでは対応が困難な状況となっている』などの切迫した声が、複数寄せられている。」「関係施設の約30%、市内167の施設について調査し、もはや法人の経営努力だけでは吸収できず、大変厳しい状況にあることが確認できた。他の自治体の事例を参考に、法人に一定の負担を求めた上で、サービス種別ごとに影響額のおおむね5割を目安として、設定した」と答えました。



【ツルマサキ】ニシキギ科の常緑つる性木本。漢字で「蔓柎」と書きます。昨年の秋に実をつけて以来、早く合いたいと待っていました。枝にあたる部分から気根（空気中に出ている根）が出て、木にしがみついて生長します。花期は6月から8月。花は淡緑色です。花言葉は「気長に努力」。写真は、6月3日、吉川区天林寺にて撮影しました。

域畜産クラスター協議会における聞き取りや、『畜産農家の経営努力だけでは対応できない危機的状況にある』とした、えちご上越農業協同組合の酪農部会・肉用牛部会からの支援を求め陳情等を通じて、適宜把握してきた」「配合飼料には国の価格安定制度が既に設けられている一方で、粗飼料には同様の制度が無く、支援が十分とは言えない状況にあることから、この度の支援では、粗飼料を対象とすることが適当と考えた」などと答弁しました。

この答弁を受けて私は、「今回の畜産危機は有機栽培を中心として地域循環型の農業をめざすとした当市の農業の在り方、農都市という将来都市像にもかかわる重大な問題だ。そこを意識して予算を組むことが必要だったのではないか」「今回の（予算措置）はいろんな支援の中の一過程であって、今後関係する農家や団体の皆さん方も協議してさらに充実させていくべきではないか」と聞きました。関係部長は、「畜

<介護保険施設等>

サービス種別	支援単価
介護老人福祉施設、介護老人保健施設など	定員1人当たり 37,000円
短期入所生活介護	定員1人当たり 22,000円
認知症対応型共同生活介護	定員1人当たり 15,000円
通所介護、小規模多機能型居宅介護など	定員1人当たり 16,000円
訪問介護、居宅介護支援など	1事業所当たり 49,000円

<障害者施設等>

サービス種別	支援単価
施設入所支援（併設短期入所を含む）	定員1人当たり 50,000円
短期入所（単独型）、宿泊型自立訓練	定員1人当たり 18,000円
共同生活援助（併設短期入所を含む）	定員1人当たり 9,000円
生活介護、自立訓練、就労移行支援など	定員1人当たり 10,000円
地域活動支援センター	1事業所当たり 39,000円
相談支援事業所、居宅介護、行動援護など	1事業所当たり 49,000円
救護施設	定員1人当たり 14,000円

はしづめ法一の活動レポート

No.2113 2023.6.11

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL https://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七六〇回 ウシガエルの大移動

私の周りにはまだ知らないことがいっぱいある……そう思ったのは五月中旬のある日の夕方でした。

たぶん週末だったと思いますが、「しんぶん赤旗」日曜版の配達が終わって、小苗代池の中の様子を見ていた時です。市道東田中下中条線に近い浅瀬の茂みで「ガサツ、ガサツ」と動くカエルの姿がいくつも目に入りました。

カエルはトノサマガエルの二倍くらい大きかったです。時々、「ウオー、ウオー」という鳴き声も聞こえてきましたから、このカエルがウシガエル（食用ガエル）であることはすぐにわかりました。

普段は、動き回っていて、なかなか静止した姿を見せてくれないのですが、この時はどういうわけだったのでしょうか、ウシガエルは一回動くと、そこでしばらくじっとしてしまいました。そのおかげで、ウシガエルの姿をよく見ることができました。写真も数枚撮りました。

ウシガエルは子どもの頃からよく知っていたのですが、わずか五匹ほどの至近距離から本物を見るのができたのは初めてだったように思います。写真に撮ったのは間違いなく初めてでした。

撮影後、近くに住むFさんと話をしていた、びっくりしたのは、昔、ウシガエルは夜になると大挙して大移動をしていたということでした。いったいどこへ行くのか。Fさんによると、「パタン、パタン」音をさせながら、近くの吉川と小苗代池を行ったり来たりしていたということです。

吉川は小苗代池の南西に位置していて、北西の方向が下流となっています。小苗代池とはかなり近い場所を流れています。まさか、ウシガエルたちが池とそこを行き来していたとは……。

その話を聞いた私は、撮影したウシガエルの画像を改めて見てみました。何枚かの

写真のうちの一枚は二匹のウシガエルの顔を正面からとらえていました。目も口も思っていた以上に大きく見えました。特に口は、何でも食べてしまうような口の形をしていました。ウシガエルは特定外来生物ですが、これなら、ザリガニなどの小動物も食べられると思います。

ウシガエルが大移動するという話を聞いた私は、正直言うと、すぐには信じられませんでした。だから、その後、ウシガエルたちが移動したであろう場所を見てきました。池と吉川の距離は一番短いところで百五十坪はあります。長いところはさらに二、三〇坪はあるでしょう。途中、上り坂も下り坂もある、杉など大きな木もあるし、低木もある。笹藪（ささやぶ）もあります。体長十数センチのカエルが移動するのは容易ではありません。

でも困難があってもウシガエルたちは移動していたのです。Fさんだけでなく、Fさんの近くのMさんもこの移動についてはしっかりと記憶しておられました。「池の水が少なくなると川へ行き、川の水が少なくなると池に来る。でも、その理由はよく分からない」と言っておられました。

FさんやMさんが記憶している大移動は、いまも行われているのかどうかは、いまのところ確認できていません。お二人の話では、最近は見ることがないとのこと。池干しなどによる駆除効果が出て、生息数が減ってきているのでしょうか。

私がこれまで行ってきた屋間の鳴き声調査で、ウシガエルは小苗代池、吉川、そして吉川の旧河川の水たまりに居ることを確認しました。いまは繁殖期、夜は相変わらず賑やかだとのこと。

ウシガエルは夜行性だといわれています。いまも移動しているとすれば、夜の可能性が大きいと思います。時間があるときに、一度、出かけてみようと思います。

4年ぶりの大湯かっぱ祭り…お客さん、どっと

4日夕方、4年ぶりに開催された大湯かっぱ祭りを見てきました。すごい参加者でしたね。過去最高かも。

私が出かけたのは、懐かしい人たちに会いたかったことが一つです。そしてもう一つ、6月議会の一般質問で新型コロナ対策をとりあげるので、5類移行後の大規模イベントの実際をこの目で見ておきたかったのです。

メイン会場ではちょうど音楽グループ「吟遊詩人」の皆さんが歌の準備をしているところでした。この日はステージで18組もの皆さんが演奏などをしたとのことでした。「吟遊詩人」の歌と演奏、笑顔いっぱい素敵でした。

最後の民謡流し、鶉の浜小唄などに合わせて、数百人の人たちが踊り



ました。私は四ツ屋浜の弟の家の前で見せてもらいましたが、踊る皆さんの表情がとても良かったですね。それに、甥や姪の子どもたちがとても喜んで体を動かしていました。民謡流しはこうでなくっちゃ……。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月31日(水)	6月7日(水)
上越南消防署	0.053	0.047
上越北消防署	0.050	0.043
新井消防署	0.040	0.050
頸北消防署	0.043	0.050
頸南消防署	0.067	0.063
東頸消防署	0.050	0.040
名立分遣所	0.053	0.053
高士分遣所	0.047	0.053